

<レフェリング 豆知識>

先日、90分のある試合が陸上競技場で行われました。

0-0で前半が終わって、選手と審判員が引き揚げたときに、片方のチームから「早いんじゃない」と声が出ましたが、そのまま選手はチームベンチに、審判員は建物の控室に戻りました。

控室で、第4の審判員が、「アディショナルタイム(AT)を4分と思い、4分と表示していました」と主審に告げました。主審は、47分になったのを確認して終わっていました。というのも、主審は、「ATは2分」と決め、「2」を空中に書いて第4の審判員に伝えていたのです。

「なるほど」。戻ってくるときの「早いんじゃない」はこのことかと思った主審は、事情を両チームに話し、残り2分を開始しました。

さて、みなさんならどうしますか？

➤第4の審判員が示した「4分」を優先しますか、それとも、

➤自分は、「2分」と計時していたので、「2分」が正しく、このままHTとする
このようなことにならないようにするためにも、(競技規則 p.256)

- ・前、後半終了予定1分前(ランニングタイム)頃、第4の審判員はハーフウェーラインとタッチラインとの交点近くまで交代ボードを持って出る。

⇒一般的には、2分前くらいに行っています。

- ・主審は、第4の審判員にアディショナルタイムを何分とるかを指で合図する。この際、間違いのおきないように、なるべく近くで合図して確認しあうのがよい。

⇒空中に描く、指で示して腕の角度で合図するなどあるようです。

- ・第4の審判員は交代ボードに主審から示された数字を表示して、ランニングタイムの45分頃にあげて観客等へ示す。

⇒事前に予測した数字を入れて、すぐに主審と確認をとる人もいます。

- ・ボードをあげる用意をしている間に、さらにアディショナルタイムをとる事態が発生したときは、改めてそのあとにアディショナルタイムを第4の審判員に合図して表示する。

いずれにせよ、入れた数字を主審と確認することです。「2」と「5」は紛らわしいので、数字がしっかりと見えるよう、数字が上になるよう主審に見せてください。

交代ボードに、最初から「8」を入れて交代対応に備えている人を人を見かけます。どの数字にも表裏を一番回数少なく動かせるそうです。



< 前回競技規則テスト問題 > 今後、毎回実施します!!

各問について、主審の判断、処置、再開方法を説明しなさい。

- (1) 主審は、大きなチャンスとなる攻撃を妨害したと判断し、2 回目の警告となる反則であったがアドバンテージを適用した。しかし、得点とはならず、ボールインプレーが続きその競技者がボールをプレーした。
プレーを停止し、その競技者を退場させる。ボールのあった位置から相手チームの間接フリーキックで再開。
- (2) ボールがインプレー中、ゴールキーパーが自陣のペナルティーエリア内で、手に持ったシンガードでボールがゴールに入るのをとめた。
プレーを停止し、得点を阻止したことによりゴールキーパーを退場させる。相手チームの PK で再開。
- (3) ペナルティーキックを行う競技者が不正なフェイントをし、ボールがゴールに入った。(GK による反則はない)
キッカーを警告する。得点は認められず、ペナルティーマークから守備側チームの間接 FK で再開する。
- (4) ゴール裏でアップしていた交代要員が、自陣ゴールに入るボールを防ぐためにフィールドに入り、ペナルティーエリア内でヘディングして防いだ。
プレーを停止し、主審の承認なくフィールドに入ったことで警告し、決定的な得点の機会／得点を阻止したことでレッドカードを示し退場を命じる。PK で再開する。

< 競技規則テスト問題 >

問題文に対する、正しい回答の記号を選びなさい。

- (1) ドロップボールの再開で、正しいのはどれか。
- ボールがペナルティーエリア内にあって停止されたときは、守備側チームの競技者にボールはドロップされる。
 - 自陣ペナルティーエリアの外のペナルティーアーク内から前線にけられたボールが、ハーフウェーラインを越えたところで主審は負傷者対応のために笛を吹いて止めた。前線にけられた位置から、ボールをプレーした競技者のチームにボールはドロップされる。
 - ドロップされたボールを、コントロールして得点を決めた。得点されたチームのキックオフで試合を再開する。
 - ボールが最後に競技者に触れた位置（ペナルティーエリアの外）で、最後に触れたチームの競技者にドロップされる。味方競技者はボールをドロップされる競技者の横にいれる。
- (2) 主審は、大きなチャンスとなる攻撃を妨害したと判断し、A チーム 5 番を 2 回目の警告となる反則であったがアドバンテージを適用した。しかし、得点とはならず、ボールインプレーが続き A チーム 5 番がボールをプレーした。
- そのままプレーを続け、アウトオブプレーになったときに、A チーム 5 番を退場させる。
 - プレーを止め、A チーム 5 番を退場させる。大きなチャンスとなった攻撃を妨害した反則の場所から、攻撃チームの直接 FK で再開する。
 - プレーを止め、A チーム 5 番を退場させる。A チーム 5 番がボールに触れた場所から、攻撃チームの間接 FK で再開する。
 - プレーを止め、A チーム 5 番を退場させる。A チーム 5 番がボールに触れた場所から、守備側のドロップボールで再開する。
- (3) ボールがインプレー中、ゴールキーパーが自陣のペナルティーエリア内で、手に持ったシンガードでボールがゴールに入るのをとめた。
- 試合を止め、GK に警告する。ボールに触れた場所から間接 FK で再開する。

- b. 試合を止め、GKに警告する。相手チームのPKで再開する。
 - c. 試合を止め、GKを退場とする。ボールに触れた場所から間接FKで再開する。
 - d. 試合を止め、GKに退場とする。相手チームのPKで再開する。
- (4) 87分30秒に、Aチーム8番とBチーム6番が衝突したので、試合を止め治療を行った。4分後(91分30秒)に試合を再開した。主審は、87分に第4の審判員にアディショナルタイムを3分とることを伝えていた。試合は何分に終わるか。
- a. 95分台
 - b. 96分台
 - c. 97分台
 - d. 98分台

<報告事項>

◇2021 全国大会事前勉強会資料

○第45回 日本クラブユースサッカー選手権(U-18)大会

ヘディングの競り合い

https://drive.google.com/file/d/161GQhORas__SpCuugfb0O1wC63iapdb3/view?usp=sharing

◇ ヘディングの競り合い

- 考慮事項
- 正しく判断できるように
- バッティングに対する対応



グループディスカッション グループ報告

INS 佐藤グループ

◇映像①

- ・グループ全員オレンジのファウルで意見が一致した。
- ・懲戒の有無については、明らかに遅れた印象はないため、必要ないのでは、という意見が多かった。
- ・後頭部に接触しているので、すぐに役員または、トレーナーに確認してもらおうという意見が多数あった。
- ・改善のポイントとして、事象があった際にもう少し早く寄れた方が良かった。
- ・後ろからヘディングに行く選手を把握して、コンタクトがありそうな場合は、もう少し真横で見れたほうが良かった。

◇映像②

- ・白のファウル、青のファウル、ノーファウルの3つ意見が出た。
また、ノーファウルの判定にするが、白のヘディングの後の落ち方が危険なため、試合を止めて、ドロップボールで再開するという意見も出た。
白のファウルを取るなら、ジャンピングアット、青のファウルを取るなら、トリッピング。
- ・考慮事項として、ボールへの優先権、結果的にどちらがプレー出来ているかという事について議論を行った。
ボールの優先権は、五分五分また白にあるという意見が出た。
結果から見ると、白がヘディングしている。

グループディスカッション グループ報告

グループINS新さん

◇映像① 判定:ファール(ノーカード)、ファール(警告)に分かれました。

考慮事項:タイミング、優先権(落下地点にどちらが先には入れているかなど)、接触部位(後頭部)
チャレンジの方向(後方からのチャレンジ)、チャレンジのスピード(助走距離、踏切位置)

正しく判断するためには:

ボールの滞空時間の間に画面右方向に移動して、串刺しを回避。映像から考えられる主審の視線はファウルを受けた選手越しから、オレンジがチャレンジしているものと推測できる。この位置だと助走の踏切やスピード感が感じにくいし、もし頭ではなく膝が腰に入る反則だった時に確認できない可能性もある。

バッティング後の対応:

考慮事項などから考えるとダメージが大きい反則であり、安全性の面から考えても素早くドクターを入れるべき。
ベンチなどと言われてから動くのではなくレフェリーがリードしていきたい。

◇映像② 判定:青のファールで一致

考慮事項:タイミング、優先権(落下地点にどちらが先には入れているかなど)、ボールにチャレンジしているか(相手の体ではなく)

正しく判断するためには:

もう少し画面左側に移動する必要があった。この映像のポジションでは争点までの間に2人ほどブラインドになる選手がいる。ただ映像のレフェリーもサイドステップを踏んで角度をとろうとしている様子は見えた。その一方で接触の瞬間は止まって見た方が良いという意見もあった。

バッティング後の対応:

特別に対応の必要があるシーンではない。しかし、反則をした青の選手が同じような反則を何度もしていたり、あるいはこの映像では見切れていたが競る前に白の選手を見て、ボールではなく白の選手に向かって体を当てているなら注意が必要になってくることもある。

グループディスカッション グループ報告

INS 三宅グループ

◇ヘディングの競り合いについて～

○考慮事項

- ・ボールへの優先権(落下地点に先にいるか、先に跳んでいたか等)
- ・接触部位 ・スピード ・タイミング ・強さ ・ボールに挑んでいたか ・チャレンジの方向

○正しく判定できるために

- ・正しく判定できるポジショニング(選手と選手の間を監視できるような位置)
- ・予期予測 ・事象が起こる前に得られる情報の把握(ボールへの優先権や方向、スピード等)

◇バッティングに対する対応

〈今回の映像では、グループとして不用意なファウルであったと判定した〉

- ・負傷の対応(1つ目の映像では、頭部の負傷になるため、迅速に)
- ・その後、ファウルした選手には注意を行う(1つ目の映像では、ボールに挑む意図が見えるため、その行為が悪 いと伝えるよりは、その行為は危険なことだと認識させるための注意)

グループディスカッション グループ報告

INS 木口グループ

◇映像①

【判定】全員一致オレンジファウル

【考慮事項】

- ・落下地点、優先権(先に落下地点に入っているかどうか・2人の位置関係＝スタート位置)
- ・チャレンジできる可能性→可能性はゼロではない。
- ・結果的にオレンジにスピードもある。
- ・優先権＝どちらによりチャレンジできる可能性があるか、どっちが先にボールに触れそうか、どっちがいい準備ができているか

◇映像②

【判定】水色のファウル、・ノーファウル(アクシデンタルな事象)

【考慮事項】

- ・落下地点には両方いる。水色はボールにチャレンジできない状態。
- ・水色は正当にヘディングできないと判断したのではないか。
- ・白がのっかって、どっちが怪我をする可能性が高い?→水色だと思う。(つぶれて事故になるし・・・)
- ・水色は白が来ていることを感じているかどうか

グループディスカッション グループ報告

INS 土本グループ

◇映像① メンバー全員が「オレンジ」のファウルと判定

何を考慮するか？

落下地点に先に入っている（優先権）、方向・タイミング・強さ、どちらがプレーしたか、どこどこが接触したか
※脳震盪の可能性もあるので、ファウルの有無に関わらず、プレーを停止する必要がある。

どこで見れば良いか？

串刺しにならない白とオレンジの間、距離が近すぎると全体像（スピード感・プレーの優先権）が見えにくい

理想のポジションに位置するためには？

ボールが蹴られる時にどこに落下するかの予測、ロングボールの予測、チーム戦術の理解、選手同士の特徴

◇映像② 審判員によって判定が分かれた

何を考慮するか？

白ファウル派：ジャンプするタイミング、ジャンプ時のボールとの距離に無理がある

青ファウル派：白の選手の方がプレーの優先権が高い、青は相手が向かっていることを予測ができた

青はプレーの影響を受けていない、ダメージを受けていない、白のプレーする方向は正しい

ノーファウル派：両方の選手ともに相手選手に影響を与えていない

どこで見れば良いか？

映像の審判員はしっかり見える距離・角度ににいると思う。次の展開にも対応できる位置だと思う。

グループディスカッション グループ報告

INS 羽矢グループ

(1)当初の判定の見解(映像①に対して) ⇒ ファウル:3 ノーファウル:1

(2)ファウルとした人の考える考慮事項

- ・助走の距離が長く、かなりの勢いを持って相手選手に対してチャレンジしている。
- ・結果として、頭にやや遅れて接触に安全が守られていない。

(3)ノーファウルとした人の考える考慮事項

- ・FWの選手が、後方にボールを遡らそうと頭を後ろに振った結果、DFの頭と接触してしまった。アクシデントの要素が強いのではないかな。

(4)空中戦の時に考慮すべき点はどのようなことがあるだろうか

- ・DFのチャレンジがあった方向
- ・チャレンジの強さ
- ・チャレンジのタイミングや接触のタイミング
- ・どちらがよりボールをプレーできそうか
(落下点のポジション取りや空中でのプレーの姿勢)
- ・どの部分が接触しているか
- ・ダメージの程度

(5)タフに戦うという点を考えれば、ノーファウルにする考えもあるのではないかな？

- ・地上戦と空中戦の競り合いはモノが違うと整理している。空中戦では自分の身を守ることが難しい。映像では、後方から、勢いを持って当たられており、結果として頭部に接触がある。それをノーファウルにしては、選手の安全が確保されていないと考えてよいのではないかな。
- ・DFに、「倒してやろう」という意図は感じられなかったが、頭部のダメージについては慎重に考えた方がよいと思う。
- ・戦わせるという点で考えるならば、もっとDFははっきりと競り勝つ必要があるのではないかな。

(6)グループとしての判定

上記のようなことから、「ファウル」とすることが妥当と考える。